



スマイル天神 No.42



令和4年2月14日
天神小学校
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

文字言語情報を処理する

学校便りの NO.41 では音声言語情報についてでした。今回は、文字言語情報について、最近気付いたことをご紹介します。

6年生の全国学力・学習状況調査、県立中学校の適性検査や私立中学校の入試問題、公立高等学校の入試問題や、大学の共通テスト問題…。以前に比べて問題量（問題の教材文の文章量）が非常に多くなっています。



しかし、最近の子どもは「文字」よりも、動画のような「映像情報」に親しむ機会（テレビ・ゲーム・動画サイトなど）の方が圧倒的に多いと思います。では、子ども達は、普段の生活で文字情報に全く触れないかというと、そうではありません。

様々な SNS 関係で文字情報をやり取りします。しかし、スマホの画面いっぱいに文字を並べたとしても、横書きで 14 文字程度、行数で 20 行程度。つまり、280 文字程度が限界のようです。しかし、そのような文字で埋め尽くされたスマホの画面は、若者はまず読まないでしょう。改行してあったり、絵文字が入ったりしたら、さらに少なくなり、100 文字程度になりそうです。また、10 代のスマホの画面を見てみると、文字情報のやり取りは、多くてせいぜい 50 字程度のように思います。私の娘（19 歳）の友人とのやり取りは 2～20 字程度でした…。また、よくテレビではテロップという文字が出てきますが、10 文字程度です。漫画も私は大好きですが、出てくる文字量は少なく、限界があります。

最近の若い人の文字離れや読解力低下というのは、横に 14 字程度で改行される文字情報の処理しか慣れておらず、この学校便りのように横 40 文字、30 行程度の 1,200 文字程度の文字情報には慣れていないのではないかと思います。

しかし、様々な試験を見ても、大量の文字情報を読み取らなければなりません。読書を通して、縦の配列の文字を読むことや、長い文字列から次の行へスムーズに視線を移動させること、文字言語情報から大切な情報・必要な情報を抜き出す力が大切です。

これから様々な試験を受けて次のステップへ進んでいくためにも、文字言語情報の処理に慣れることが大切です。そのためには、「経験する」しかありません。本校が取り組んでいる親子読書をきっかけとした読書でもいいでしょう。私は学級担任の時に学級便りを出していたら、保護者だけではなくクラスの子どもたちがよく読んでいました。最初から文字量が多い文章ではなく、漫画からでもいいので興味のあるものから、文字に慣れ親しむ経験を積ませていくこと、それから少しずつ文字量が多い文章を読ませていくこと、そしてそれを継続することが大切だと思いました。

天神小一徳運動 「気持ちのいいあいさつ」 ～あじさいあいさつを～

～あいての目を見て ①ぶんから ②わやかな声で ③いつでも・どこでも・誰にでも